



一之江名主屋敷は、江戸時代のはじめに一之江新田を開発した田島家の住居です。現在地に創建されたままの姿を伝えています。北と西に屋敷林(防風林)をもち、堀をめぐらした中世武家風の面影をそなえた屋敷構えです。平成元年から平成4年にかけて建物の復元修理を行い、平成10年から平成11年にかけて敷地を整備しました。

現在の主屋は、安永年間(1772～1780)、7代目当主喜右衛門のときに建てられたものです。主屋は、座敷・板の間・土間の合計276㎡(約84坪)の曲がり家です。玄関に式台を備えた名主の格式を伝えています。



屋内のようす



庭園と濡れ縁・入側



長屋門 (平成26(2014)年撮影)

いちのえなぬしやしき
一之江名主屋敷
東京都指定史跡・江戸川区登録史跡